

審議会等の会議結果報告書

課所名

駅前交流テラスすわっチャオ

会議名 第1回諏訪市駅前交流テラスすわっチャオ運営協議会

開催日時 令和5年11月15日(水) 19時00分～20時30分

開催場所 諏訪市駅前交流テラスすわっチャオ 会議室4・5

出席者 (出席者)【会長】茅野恒夫氏 【副会長】中嶋博美氏 【委員】宮坂友子氏、飯島千種氏、清水誠氏、浅井学氏、柳澤真由美氏、塚西文香氏
三輪教育長、細野教育次長、五味館長、片桐企画運営係長、小池主査
【オブザーバー】草間良子教育委員
(欠席者) 加藤泰久氏

(傍聴者) 新聞記者 2社

資料 資料1:協議会設置の目的について
資料2:駅前交流テラスすわっチャオ運営状況について

協議議題(内容)及び会議結果(要旨)

1、開会

2、委任状交付

3、教育長あいさつ

4、自己紹介

5、会長、副会長の選出

会長:茅野恒夫委員、副会長:中嶋博美委員

6、協議事項

(1)協議会設置の目的について

諏訪市駅前交流テラスすわっチャオ条例第13条『すわっチャオの円滑な運営に必要な事項について調査し、及び協議するため、運営協議会を置くこと』により設置。

(2)駅前交流テラスすわっチャオ運営状況について

<事務局より報告>

○令和4年度の運営状況について

- ・収入額は令和3年度に比較して1.7倍ほどとなり、回復してきている。
- ・入館者数も17万人を超え、令和3年度に比較して135%ほどの入館者数(無料の利用者も含めた全体の人数)。
- ・各施設の使用率では一番多かったのが会議室1～5で使用率としては49%。若干予約が取りにくいという状況も出てきている。和室は39%、調理室は13%、スタジオは約20%。
- ・和室の使用料収入が約3倍と伸びているが、会議室の予約が若干取りにくくなっていることにも関係するのでは。全体では有料で2万1,000人ほど利用があった。3年度に比較し、まだコロナ禍中だが回復してきたというのが概況。

○令和4年度の自主事業について

- ・全体では87回の主催事業を開催し、延べ1,274名が参加。後半は比較的順調に開催ができた。
- ・新たな取り組みとして、市のスポーツ課とコラボした講座、放送大学とコラボした講座、オンラインを使った高校生企画によるオンライン文化祭、他に、ハロー！キッズタウンかみすわということで、共催イベントとして駅前の商業会、

保護者、諏訪実業高校と、駅周辺店舗やすわっチャオを含めた会場で開催した。

○令和5年度の運営状況について

- ・今年度は8月15日に諏訪湖祭湖上花火大会が開催され、火曜日で休館日だったが、観光客の休めるスペース、熱中症対策ということで、今年は特別開館した。9月末時点での営業日数は158日。
- ・9月末時点での収入額は昨年度1年間の8割近い収入額となっている。
- ・入館者数はほぼ前年の半分程度、使用率も、4年度との比較では全施設とも伸びている。5月8日以降、新型コロナウイルス感染症の扱いが5類に下がったこともあり、かなり使用の頻度は上がってきている。
- ・昨年度に引き続き、駅前の賑わい創出のために4本の柱による取り組みをしてきている。

1)のオンライン配信場所としての取組

本年からは、オンラインだけでなく、実際に会場にも人を入れて併用する形の利用が増えてきている。

2)の貸館利用件数向上への取組

民間事業者の定期的な利用がある。音楽イベントの会場としての利用も3件ほどあった。

当館は、事前申し込みであれば飲酒を伴うイベントも開催でき、お酒を飲みながらコンサートを聞くというようなことができる。文化センターとかホールではやりにくく、新しい使い方を教わった感じであった。

3)、4)の多世代に來館していただける取組、気軽に立ち寄れる場所としての取組

子育て世代向けの事業、高齢者世代向け事業として行っているが、新たな取組や開催数を増やすなど、多くの人に来ていただけるように工夫している。(参考資料:市役所・他団体との連携事業一覧)

○令和5年度の運営の見直し等について

- ・5月8日付けでコロナが5類移行ということで、利用人数、利用時間等の制限を全て撤廃し、元にもどした。
- ・昨年3月の運営協議会で服装を、ネクタイではなく、軽装にしては、というご意見をいただき、総務課とも協議した上で、市のクールビズ期間に限らず、年間を通してノーネクタイ等の軽装を基本とした。事務室も来館者の受付をスムーズにできるようにレイアウトを変更した。
- ・来年、令和6年の5月18日で5周年。利用者からの要望で、インターネット予約等の準備中。利便性を上げるための取り組みの検討を進めている。
- ・新たに取組んだ自主事業は、「出張コリほぐし体操」(今まではすわっチャオだけでやっていた体操を、各条例館に向いて開催)、「子育て講座」(諏訪こども文化ステーションと初めてコラボし、子供向けのお祭りイベントを開催)、「落語会」(古今亭雛菊さん)。
- ・「親子であそぼう」を月1回から月2回、放送大学とのコラボ講座は年1回を年2回にするなど、拡充を図った。

○前回の委員意見への対応状況

- ・服装について:先ほどの説明の通り。
- ・小中学生の居場所づくりについて:主にイベントとして実施。「すわ未来創造こどもゆめプロジェクト」、「子ども会議」、「チャレンジショップ」など教育委員会の事業を開催し、小中学生にもすわっチャオを知ってもらう。
- ・本に触れ合う環境について:昨年度当館を使って一箱古本市というバザーのような形で古本を持ち寄って販売する企画を開催。今年度も2/3(土:アイスクャンドルの日)に開催予定。企画発案者の方たちと、今後、本を活用した環境づくりをよりしやすくするため、検討をしていきたい。
- ・災害に対する備えについて:災害の避難場所としての機能を検討。また、諏訪湖祭湖上花火大会当日は熱中症対策・災害等の備えとして特別開館を実施した。
- ・情報発信の在り方について:すわっチャオとして何をやっているかわかりにくいというご意見をいただいた。今、駅周辺を含め、他の市の施設の情報と合わせる形で情報発信できないかということで、内部検討中。
- ・時間帯別利用状況の分析について:ざっくりとした状況では、会議室は午前、午後、夜間ほぼまんべんなく、どの時間帯も使用されている(午後の方が若干多い)。和室等も同様。スタジオの利用は、学校が終わった後に高校生、勤務が終わった後に一般の利用者が多く、午後から夜間にかけての利用が多い。

<質疑応答>

○委員

会議室の予約が取りにくくなってきている状況に対して、調理研究室なども案内しているか。

(事務局)

している。実際に使っている方も多い。

○委員

予約システムが導入されて、どんどん予約ができるようになってくると、会議室の予約がより取りにくい可能性が出てくると思われるが、会議室だけではなく、他のスペースもなるべく利用者が使えるよう検討を。

○会長

前回のときに職員の服装を自由にという話が出たが、すぐできるとは思っていなかったのが嬉しい。

(3)意見交換

○委員

・まだ地元企業との連携があまり進んでないように思う。例えば企業と連携してプロジェクションマッピングをうまく活用すると、諏訪湖花火の日にこの映像を駅前でも見られるとかができるのではないかと思う。コスト等いろいろあるが、一度企業に相談してみるのも一つの手か。スクリーンコンサートを提案する。例えばサイトウキネン。いろいろな技術を持っている企業とのコラボでできると思うので、ぜひ検討をお願いしたい。

○委員

・子どもがすわっチャオのオンライン講座に参加している。興味あるものは内気な子でも自主的に参加すると思う。こういった企画を続けて行ってほしい。

・各世代で取り組みがなされているが、それが世代間の交流に繋がればいい。例えば、大きい模造紙か何かに好きな言葉は何？について書いてもらう、〇〇(20代)みたいに。言葉をいろいろな世代が書いて、そしてそれを他の世代が読む、何かそれだけでも交流になって面白いと思う。活動範囲がそれぞれ世代によって違うので、何か一つの大きなイベントをやるのは大変なことだと思うが、小さなことからできる交流も良いのでは。

・茅野のワークラボハケ岳のところに「まちライブラリー@My Book Station」があり、その企画が面白い。お金を払い、一つの小さなボックスみたいな、自分のスペースを持つ。好きな本などをそこに置き、あなたはこの本をどう思いますか？という意見を書く場所がある。自分が登録すればオーナーが自分なので自由に使える。他でやっている面白い取り組みも取り入れたらよいのでは。

・昔、いきいき元気館で、中学生と保育園児の交流会があった。その企画にここを使ったらよいのでは、と考える。息子が保育園児の時に参加した。中学生に交流してもらった側だったが、なんとなく覚えていて、今現在お友達の兄弟と遊べる、交流ができる。ぜひそういう交流のきっかけもここでできたらよい。

○委員

・今週末にある「ハロー！キッズタウンかみすわ」のイベント、主体はお母さんたち、子育て世代のお母さんたちが主体になって、商店街も一緒になってやっている。商店街で実店舗での体験もできる。囲われた中だけではなく、外にどうやって出て地域の人と関わるかということが、ここを拠点にしながらかつていってほしいと思っている。

・アイスキャンデルが2月3日に行われるが、これはもう30回目。小さい頃アイスキャンデルを学校で作った子たちが30、40歳になっていて、子どもの頃作ったね、なんていう話も出てくる。学生たちや子どもたちと一緒にアイスキャンデルを作れるような催しができたりとか、発展していけば嬉しい。

・この日(2/3)に古本市が行われる。今回、前回のときもすわっチャオからスタートしたスタンプラリーをアイスキャンデルの時間帯に行った。今回も古本市の主催の方たちとも一緒にそれをやる予定で、それプラス商店街のお店にもそれぞれのお店で1箱の本を置こうと思っている。他のお店に行ってもどんなものを置いているのかなという楽しみができたり、街の中を歩ききっかけになったり、イベントがここから繋がっていけるような状況になってくるとすごくいいと思う。たくさん自主企画をやっているのはわかるが、街の中と繋げられるきっかけっていうのがあったら、街の

持っている力や、商店の持っている力、人の力というものを寄せ集められるのかなと思っている。

・小中学生について。イベントをやっていたが、日常的にここに小中学生がいられるかと思うと、なかなか難しい。自分たちだけで来ることはできないかもしれないが、すわっチャオに来て本が置いてあったりすると、「じゃあお母さん買い物して、私はチャオに行ってくるね」と言うような、日常的にいられるスペースがうまく作れたらいいかなと思う。高校生ぐらいなら自分たちでその場所を選べるが、小中学生ではなかなか難しい。ここなら安心と思ってもらえるようないい場所になったら良いと思う。

○委員

・たくさんのイベントを開催し、いろんな年齢の方が参加していることがよくわかったが、世代を超えて交流できるような場所やイベントがあったらいいと感じた。以前、世代交流するために高校生が輪になって、お年寄りがまたその真ん中に輪になって、1人ずつ30秒間好きな食べ物だけお話しよね、と言いながら子供が交代するフォークダンス何とかいう交流会を勉強したことがあるが、そんなお年寄りの元気になれるような交流会をこの会場を使ってやっていただくといいと感じた。

○委員

・商工会議所では、コワーキングスペースということでセミナーを開催したり、オンラインでの交流会やったりということで、ご協力いただいて本当に助かっている。やはりコワーキングの中でもいろいろな業種の方がいるので、また引き続き連携しながらよろしくお願いします。

・商工会議所も貸室をやっている。先ほど音楽イベントで飲食という話があったが、こちらは会議室でケータリングとかで飲食の会議も利用可能なのか。

(事務局) はい。実際にケータリングで持ち込んで、会議や同窓会などで使っていたらいい。

○委員

・貸し館利用件数の向上ということで、今回予約システムなどを導入いただくことは非常に良いことだと思う。ただ、自分で空き状況を検索すると、ほとんど×になっていて取れない。見るタイミングで、機会損失が生まれているのではと思っている。駅前で観光案内所の運営もしているので、そういったところで連携していくと、システムを導入することにより、少しでもその機会損失がなくなっていく、まだまだ使えると思う。

商工会議所が運営するコワーキングスペースについては、やはりスペース的に狭い。何度かご案内しても、会員でないと使えないなどいろいろあるので、そういった意味ではすわっチャオのスペースは非常に有効と思っている。

・一つ情報としてお伝えすると、諏訪市観光協会、商工会議所、諏訪市産業連携室、観光課と旅館組合で、ワーケーション連絡会というのを昨年からは実施している。中ではどこで仕事ができるんだみたいなテーマが一番出てくるので、この場所を紹介できる。最新の空き状況なのかがわかるとすごく利用度が増していくし、機会損失に繋がらないんじゃないかなと思っている。

ワーケーションと高校生というのは非常に関係が深い。他の地域に行くと、ワーケーションのスペースを市が提供している。そういうところでは学生、企業家、企業人といろんな方々がそこでワーケーションしているため、そういった方々との交流が生まれてくる。先ほど委員の意見にあった、企業との接点もすごく大事ではあるが、ワーケーションはこの場所でできますよなんて伝えていくことにより、そういう接点が生まれて、新たな人流というのか、いろんなものがまた生まれてくるんじゃないかなと思っている。

まさしくそういったものをやらないといけなのが観光協会の役割。いただいた情報をぜひ生かしていきたい。

・最後にジャストアイデアという形だが、皆さん高齢の方がいらっしゃらないとか、若手の方とか年齢層を言われるが、ここでの年齢のデータが取れていない。

観光案内所で世界地図を一時期出して、そこにシール貼ってもらった。これの諏訪市版として、市の地図を大きくどこかの入口に貼って、そこに来館者に年代別のシールを町内の場所に貼ってもらう。数字を出すということでなく、ビジュアルで人の動きも見えらると思う。手間もかからないと思うので、模造紙などで印刷してやるだけでも、年代や地域性とか見えてくるのでは。地域の方が来づらいいというが、実態は誰もわからない。何か簡単にできるような仕掛け、

手間のかからないような形でできると良い。そういう点で自動で人数カウントができるのはすごくいいこと。諏訪理科大と組むなどしたらもっと簡単にできるかもしれない。

○委員

・子供たちの居場所を作ってあげたいという気持ちがすごくあるのを感じた。

子供食堂のスタッフで働いているが、今は、食べられなくてということではなく、お母さんも子どもも居場所を求めて来ているというのが本当のところかなと思うことがある。ちょっとの時間でお母さん同士、子供たち同士の交流ができ、それが楽しくてリピーターになって来ているというのが現状。6年くらい前は60人で、今は150人の弁当を用意している。いつも思うのは、夏休み中ずっと子供食堂をやってあげたいということ。企画の中で、小学校の夏休み、冬休み、春休み等の間に子ども居場所を作ってあげられるような環境作りができればいいと思う。

○委員

・予約がなかなか取れないという部分の課題については、コロナの制限がなくなってから3日前までに申請となり、今はまだ4日前に事前確認の電話をしているため、当日キャンセルが減った。1時間単位で貸し出している部屋も換気時間がなくなり、今までのイメージ＝取れないすわっチャオではなく、意外と取りやすいすわっチャオになっていると思うので、諦めずにご予約いただけると嬉しい。

・コロナの制限がなくなったことで、外に直接宣伝ができるようになった。個人的には「コリほぐし体操」をもう3年くらい続けて継続して行っている。今年度に入って、近くの地域の人にはすわっチャオの存在が周知されてるきているかなと思うが、ちょっと遠い地域の方はすわっチャオの存在自体も知らない。知っているが何をしているかわからない、行く目的がないという方がすごく多かった。今回直接各地区公民館に出向いて活動の宣伝や、施設の綺麗さ、冷暖房完備でいい環境で体操教室できますよとか、そういう宣伝をしているところ。

・あとは今週末の「ハロー！キッズタウンかみすわ」に私も関わらせてもらっているが、今年の1月にプレ開催をしていて、そのときは参加者100人弱でコロナもあったのであまり集客できなかったんですけど今回一気に2倍ぐらいの集客ができていて、180人ぐらい来る予定。お母さんたちがすごくパワフルでどんどんレベルアップ、今回2回目だが、エプソンさんを巻き込んですごいシステムを導入したりとか、中高生のボランティアさんもかなり増えている。やっぱり職員でいるとわからない、あと、自分が移住者ということもあり、何かニーズ？どういふものが必要とされてるかっていうところがちょっと弱い。そんな中で地元の方々が必要とするものって地元の方がすごく見えてるっていうのを感じていて、そういうニーズがあるところをどんどん盛り上げていくのは、すわっチャオと一緒に協賛して盛り上げていけるのがすごくいいのかなと思う。

資料を見てみると、講座ばかり。で他の方の意見とかだと、講座とかじゃなくてもっとすわっチャオでしかできないことやってよ。みたいな話を聞いすが、どうしても斬新な意見が出せる人間ではなく難しい。でも、ここの諏訪の人たちはすごいパワフルな方が多いので、そういう方のサポートっていうところができるんじゃないかなと思う。今回の「ハロー！キッズタウンかみすわ」に関しては、子どもの成長を地域の大人の方たちと一緒に見守ってできるっていう環境がすごくいいなと思った。今回はそのイベントで使用する手帳が3年使える仕様になってるので、そのお子さんの成長も一緒に見ていけるっていうのがすごくいいなっていうふうに感じている。

そういうところを私達、すわっチャオ全体で一緒に盛り上げていけたらなと思っている。

7、その他

○教育委員

たくさんアイデアをありがとうございました。皆様のご意見、アイデアが実現したところを想像して、すごく楽しそうだな、素晴らしいなというふうに、圧倒された。様々な企画が出てきたときに、それを多くの人に知ってもらう情報発信も大切なことと感じている。

8、閉会